

9月15日（日） ショートメッセージ

聖書 使徒言行録 20章25節～35節 （新約 254頁）

メッセージ 「与える方が幸いである」

あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。（使徒言行録 20章35節）

（1）エフェソでの滞在中にパウロは、マケドニア州、アカイア州を通してエルサレムへ行く決心をし、同時にローマに行くことも考えていましたが、しばらくエフェソに留まっていました。ところが、パウロの活動を非難する銀細工師がエフェソの人たちをそそのかしたため騒動が起きました。騒動は収まりましたが、パウロは弟子たちに別れを告げると、マケドニア州へと出発しました。パウロはマケドニア州、アカイア州と巡りながら宣教活動を行ったあとフィリピから船出してトロアス、アソスを通して、エフェソから50キロ離れた場所にある港、ミレトスに到着しました。

（2）パウロは、ユダヤ人の祭りである五旬祭までには、エルサレムへ戻りたいと思っていました。そこで、エフェソにいるキリスト者の教会の指導者、長老たちをミレトスへと呼び寄せると、長老たちに別れを告げました。本日の箇所はその別れの言葉の後半部分です。

パウロは別れの言葉で、まず、アジア州での自分の活動を振り返ります。自分の力不足に嘆きつつも、また、数々の試練にあいながらも、自分は主にお仕えてきた。そして、与えられた福音を何一つ残らず伝え続けてきた。そして今、わたしはエルサレムに行く。そこでは、投獄と苦難とがわたしを待ち受けていると、聖霊がはっきり告げてくださっている。「しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエ

スからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。」（24節）

もう、あなた方と再び会うことは無いだろう、だから今日は、これだけは特に伝えたい。私はだれの血についても責任はない。私はあなた方に神のご計画を全て伝えた。どうか、神から群れ全体の監督者として任命されたあなた方が、自分自身とキリスト者の群れ全体に気を配って下さい。いつか群れを混乱させる者が入り込んでくるだろう。しかし、私が教えたことを思い起こして目を覚ましていなさい。今、神と神の恵みの言葉にあなた方を委ねます。わたしはあなた方をむさぼったことはありません。自分の者はすべて、自分で稼いできました。あなた方も同じようにして稼ぎ、弱い者たちを助けなさい。

（3）そして最後に、パウロは長老たちにイエス様ご自身が言われたという言葉をご紹介します。「受けるよりは与える方が幸いである」（35節）。パウロは長老たちに、この言葉を思い出すようにと、いつも身をもって示してきたと言います。

この言葉は福音書には出てきませんが、イエス様の教えと歩み全体がこの言葉に集約されているとも言われています。

わたしたちも、エフェソの長老たちと共に、この言葉をイエス様の言葉として心に刻みたいと思います。（多田玲一牧師）